



- ・進んで学ぶ生徒(知)
- ・心豊かな生徒(徳)
- ・たくましい生徒(体)

日本の良さを学び、未来を切り拓く！！

【前略】今年の日本のスタートは、元旦に石川県能登地方を震源とする地震が起き大きな被害を受けました。又、翌日2日には、羽田空港で、能登地震の救援物資をのせ滑走路に待機していた海上保安庁の飛行機と民間の飛行機が衝突事故となり、波乱の日本のスタートとなりました。

私は、この2か所で起きた事故に本校の生徒や家族が巻き込まれていないかが真っ先に心配になりました。今この原稿を書いている時点では、報告は、入ってきていないのは、幸いですが自分の学校関係者の事だけでなく一人でも早く支援の手が届き、救われてほしいと願うばかりです。

本来、年の節目は世界各国でも行事が行われて、日本の年末からお正月にかけての節目は、特別な雰囲気を感じます。特に元旦から3日にかけての穏やかな日々と凜とした朝の澄んだ空の空を見上げていると心が洗われます。今年も関東地方でも夜空は、雲の合間から、よく星が見えて大変きれいでした。

さて今日は、年の初めに「日本の良さ」のお話を2つ紹介します。

まず初めに、年のはじめといえば年賀状があります。しかし、最近では、メールも多く使われているようです。私のもとにも、海外日本人学校の校長先生をされている先輩からご挨拶のメールをいただきました。そこに日本人に関することで大変興味深い内容がありましたのでご紹介させていただきます。

その方が言われるには、海外で仕事をしていくうちに日本人が高く評価されていることが伝わってくるというのです。その内容は、(※日本人とは、日本の文化を学ぶ人全ての方の意)

- (1) 日本人は、嘘をつかない。(人を ^{おとし} 陥れない)
- (2) 日本人は、人のものをとらない。(人に迷惑をかけない)
- (3) 日本人は、人のせいにならない。(責任をとる)

と良く賞賛されるそうです。このことは、日本では、幼い頃から当たり前のこととして躰けられることです。また「忍耐と努力」という学校教育の根幹を成してきたことが、更に日本人の素晴らしさだと評価もしてくれているといえます。

外から日本を見ることで日本の良い評価を聞くことは、うれしいことですし、これからもぶれることなく大切にしていきたいと思えます。

もう一つ紹介します。いま日本の企業では、英語を社内の共通語としている企業が増えているというのです。国連で定めた公用語は、英語・フランス語・ロシア語・中国語・スペイン語・



アラビア語の6つだそうです。ビジネスの世界では、英語が事実上の共通言語であり、インターネットサービス大手の楽天とカジュアル衣料用品店のユニクロのファーストリテイリングが、英語を社内の公用語とし、外国人社員を交えた会議や資料などは、原則英語にしたといいます。その他でも多くの会社がこのような方向で動いています。グローバル社会の表れであり、更に多くの人とのコミュニケーションが求められているのを感じます。

しかし、このように海外で英語を堪能に使いこなせる人でも、その子どもたちに日本語や日本文化・習慣を学ばせる塾に通わせるというのです。日本語が日本人の感性を表し、文化の基本であることを大切にしているからだそうです。私は、これが重要なんだと感じました。今、日本にいる私たちがすべきことは、たとえ国や人が違っても、人として評価される内容を身に着け

「日本の良さを学び」その基本を押さえながら、皆さんが自分の良さを磨き、自信を胸に自分自身の歩幅で一步一步確実に自分の未来を切り拓いてほしいと思います。最初にお話した通り、日本人が認められる(1)～(3)の内容は、災害時に日本人が実行し、災害の規模を最小限に食い止め、早い復興を成し遂げられる日本。世界からこのことが高い評価を受けているのです。世界に通用するグローバルな考えと実行力は、「青い鳥の物語」のようにこの日本の毎日の生活の中にあると思います。私たちは、今年も美原中学校を更に前進させ、皆さん一人一人が充実した日々を重ね成長できますよう一緒に頑張りましょう。

3学期始業式 式辞より

全校生徒に校服検討委員会結果報告

12月6日(拡大校服検討委員会)で選ばれた4候補の校服を校服検討委員長の校長より全校生徒に披露し、その制服一つ一つの内容について説明しました。1月9日(火)～1月26日(金)まで校長室前の展示スペースに展示します。その後、全校生徒の投票によって決定します。

投票する際には、実物を観て、触れて、責任ある一票を入れ、美原中学校の未来を築いてください。この校服は、令和7年度の新入生から着用されます。

卒業後に皆さんは、この校服を見た時、自分たちが「美原中の新しい一歩を踏み出させたんだ」と誇りを感じてください。尚、この決定された校服は、令和6年度の50周年記念行事に紹介VTRを作成し、発表します。よろしく願います。



★避難訓練(不審者対応について)★

日本は、多くの地震を含む災害と紙一重のところでは生活しています。「災害は、忘れたころにやってくる」という言い回しは、もう通用しません。記憶から忘れることの無い震災、そして自然に誘導されて起こる津波、土砂崩れ、原発の事故をはじめとした火災など日々世界で起こっている戦争も含め、日本でも年明けの1日、2日と始業式前に黙とうから始まる事態が起こっています。校長の私は、この日、始業式から多くの出番をいただきましたが、9日の最後の出番の避難訓練の講評では、少し渋い戒めのような話をしました。美原中学校の生徒は、久々に行われる集会、始業式でも朝の7時から温めた体育館のフロアでも、冷たさの残る床に、入ってきた3年生から静かに腰を下ろすことのできる実力のある生徒たちである。校長としては、安心と誇りを持ってスタートでした。しかし、不審者対応で以前に行った机を置く手立てより、より短時間で誰でも確実に止められる。棒(まさに単なる木の棒)を作成用意し、使用しました。予想通り、教室のドアは、職員がきちんとチェックしても簡単には、開かないように対応できましたが、ドアは、開かなかったが、ほんの数クラスでしたが、緊張感が不足し、現実的な対応静かに人の気配を消すというリアルな対応ができないクラスがあり、人災の引き金になる、人のざわつく声が廊下までひびいてしまった。私は、自然災害にしる、人災にしる、誰かが犠牲になっていいなどは、一度たりとも考えたことは、ありません。この経験を生徒に生かさせたい。

